

開放感と住む家

水戸工業高校 建築科 高橋広弥

● ～コンセプト～

現代社会ではスマホやパソコン、AIなどのデバイスが我々の生活の一部であり、必要不可欠な存在といえる。しかしインターネットに依存して現代では、あらゆる情報への興味や関心がネットに集中し、視覚的に捉えることしかできなくなっている。そうすると、運動能力の低下や生活習慣の乱れなど身体への負担が大きくなってしまふ。

小さい頃を振り返ると、外が晴れていれば、公園や広場、学校のグラウンドなどのひらけた場所で遊んでいた。外が雨でも、「家」という空間からできる遊びを模索し、その日を過ごしていた。いずれも何からも縛られず、自然と体を動かし、純粋な気分のまま時を楽しんでいる。

このような開放的な感性が、身体の負担の解消に繋がると考え、家の中でも体を自然と動かしたくなる、運動したいと感じられる、開放的な家の設計に至った。



1・2階平面図



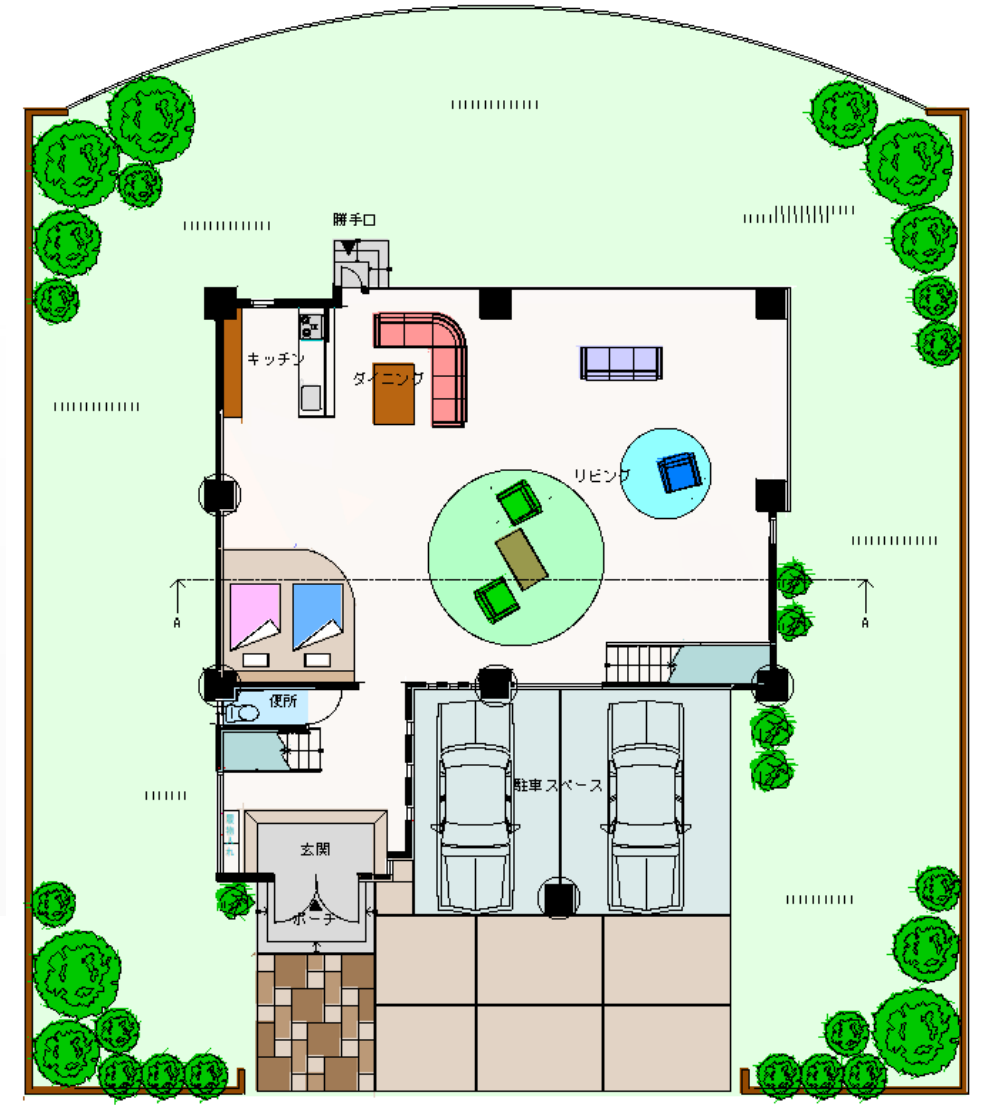
1階平面図兼配置図

・リビングが大胆に広い

→思う存分体を動かすことができる。

・部屋や仕切りがほとんどない

→閉鎖的空間をなくすことで、より開放感を味わうことができる。



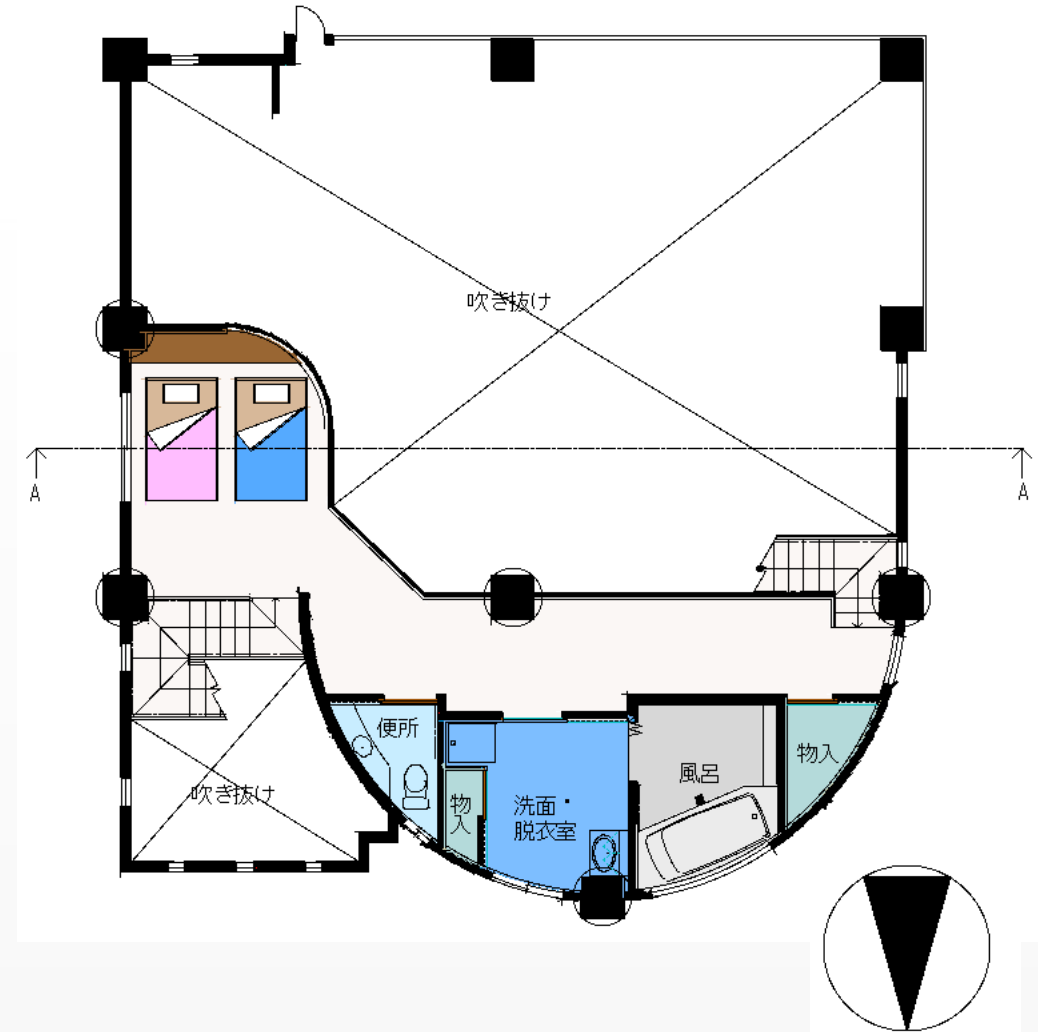
2階平面図

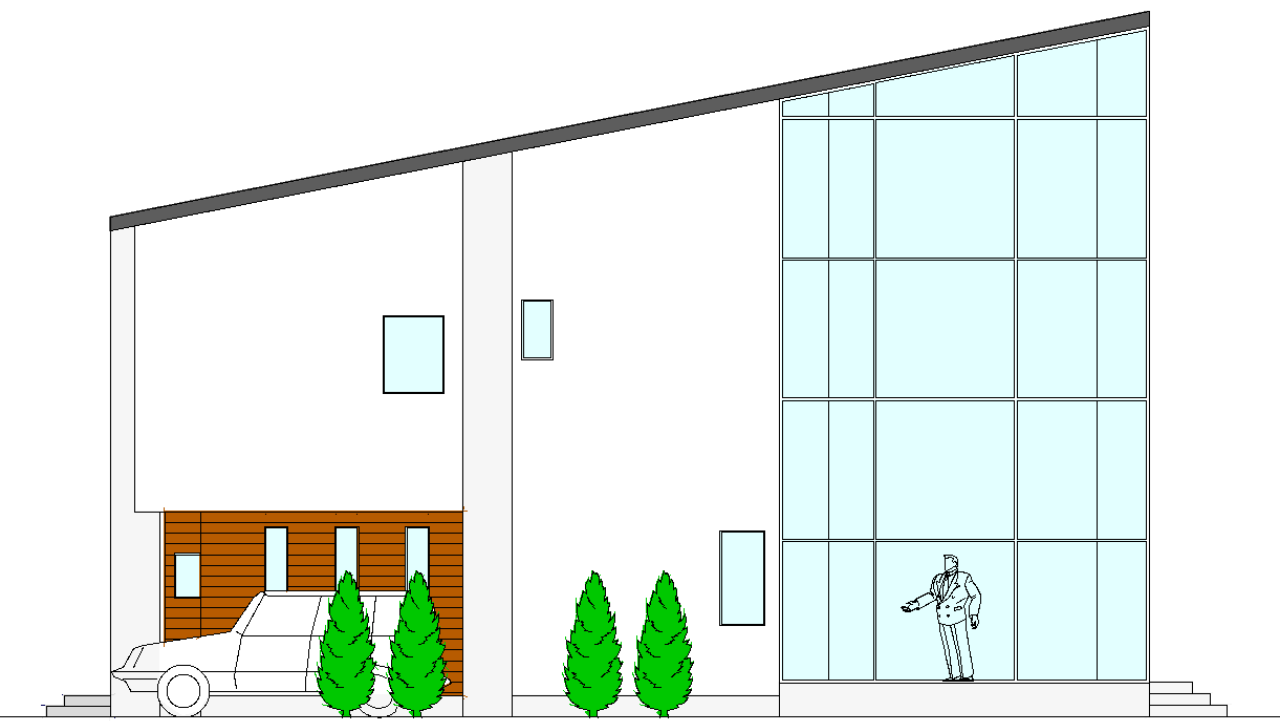
・ほとんどが吹き抜け

→ 2階にいても、南面の窓から**自然光**を取り入れることができる。

・曲線を設ける

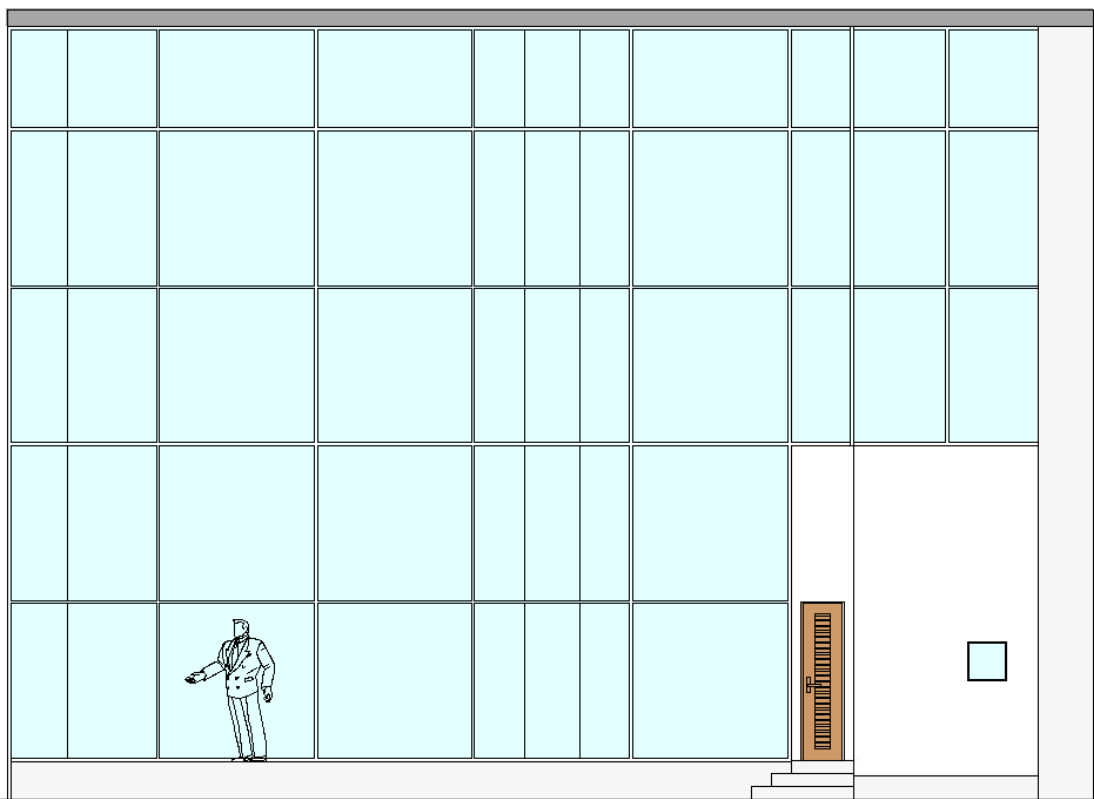
→ 柔らかい雰囲気や穏やかな印象が生まれる。





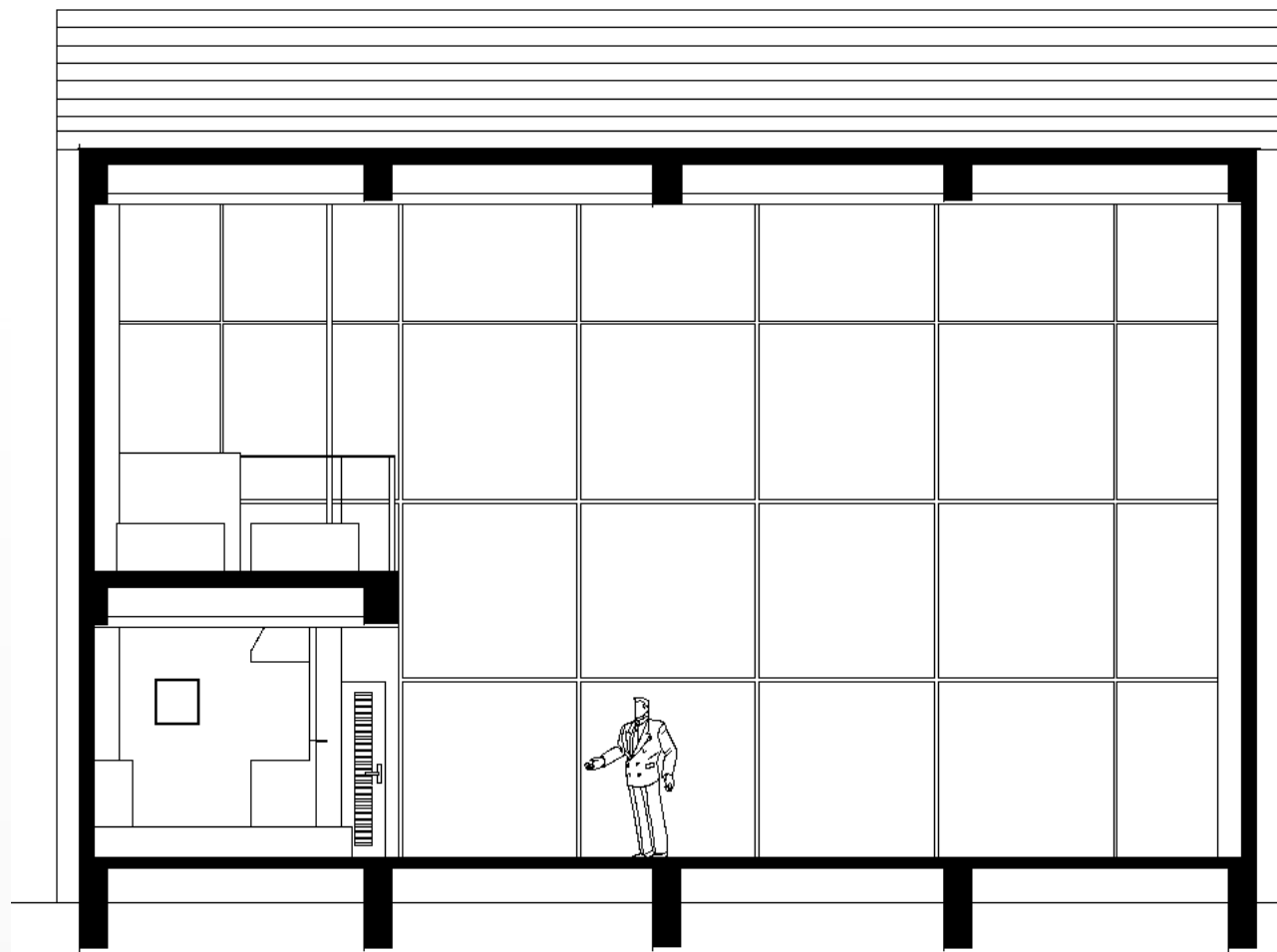
西立面图





南立面图





断面図





参考文献

- ネット依存による生活への影響
- 関連サイト <https://surala.jp/column/psychology/7097/>
- 窓の心理的効果
- 関連サイト
https://www.itakyo.or.jp/upload/kouka_miryoku.pdf